

沈夢雨：後悔なき選択

中山大学のエリート学生から組み立てラインの労働者へ



原文はこちら <https://www.shidaixianfeng.tk/archives/11852>

一 工業区的女子大学院生

2015年6月、私は中山大学数学コンピュータ科学部大学院を卒業した。しかし同級生たちとは異なり、高層ビルのオフィスで働くような仕事に就くかわりに、工業地区でブルーカラーの女性労働者になることを選択した。この選択は突然の思いつきや一時的な興味にかられたものではない。私の人生経験、労働者の状況について自ら経験し理解したこと、そして、この状況は変わらなくてはならないという信念に深く根付いてのものだった。

中山大学在学中に参加したいろいろなセミナーや講演が、労働者を理解するきっかけとなった。経済発展の車輪に轆かれて身体に障害を負った労災被害者たちのことを知った。工場の屋上から飛び降りたフォックスコンの労働者たちのことも。彼らの命は取るに足らないもの扱いだっただ。そして、雇えば生き地獄に陥る塵肺という労災病、ベンゼン中毒、白血病、騒音による失聴などなど。

都市で辛抱強く働く労働者たち。そんな彼らを都市は容赦なく叩きつぶすのだ。



座して死を待つ塵肺労働者

あるとき、農民工の状況に関する、北京大学の盧暉臨教授による講演を聞いた。質疑応答の時間に、一人の学生がこんな質問をした。「盧教授、私たちのような大学生はこういうシステムの既得権益者なのではないでしょうか？」

現行システムの既得権益者?! この言葉に激しく胸が痛んだ。

そう、私は幸運にも中流家庭に生まれたことで、基本的な生活上の必要が満たせないかもしれないという心配を一度もすることなく育った。質の良い教育を受ける機会も得て、自分の将来は明るいものに見えた。でもこうしたことは全部私にとって当然の権利だったのだろうか？

この瞬間から、私は自分自身のこと、そして教室を埋め尽くした無限の将来を持つ学生たちのこ

とを見つめなおすようになった。そして、珠江デルタで毎年労働者たちが失う 4 万本の指のこと、青春を都市に捧げながら都市に住み続けることができない 2 億 8 千万の農民工たちのことを考えるようになった。



命を賭して抗議するフォックスコンの労働者

私は東莞で働いている親戚のことを考えた。何年も前、伯父は仕事帰りに交通事故で重傷を負い、障害が残った。もし当時私が労災関係の諸法規をきちんと知っていたら、補償金を請求するよう助言してあげられたら。伯父の一番上の娘、つまり私のいとこにあたる人はまだ中学生だったが、中退して働きに出た。わたしは正月に帰省する彼女の真新しいきれいな服のことしか印象になかったが、彼女が工場でどれほど大変な状況で働いているかを知ったのは最近のことにすぎない。

ある年、夏休みに東莞へ行った。きらびやかな高層ビル群を通り過ぎ、いとは狭苦しい細い路地へ私を連れて行った。日の当たらない、暗く湿ったところだった。頭上には電線やケーブルがいっぱいぶら下がり、水路や池はごみだらけで悪臭を放っていた。制服を着た工場労働者たちは疲れきった顔をしていた。この場所が城中村〔都市スラム〕と呼ばれるところで、そこに住む人たちが農民工と呼ばれる人たちということに私が気づいたのは何年も経ってからだった。

農民工の境遇に同情し、問題意識を持った私は、労働法を学び始めた。工業地域や城中村、建設現場を訪れ、彼らの生活や抱えている問題を知った。

大学の隣にある建設現場に行った。労働者たちが暮らす地下のガレージは、暴風雨のときは水浸しになった。彼らは水に浸かった服や寝具の心配をし、それ以上に、雨で仕事ができず、その間稼ぎがなくなってしまうことを心配していた。私は彼らに労働法の説明をしたが、法律があってもきちんと労働契約が結べる保証があるわけではない。

私は東莞の裕元製靴工場へ行った。しばしば”製靴業のフォックスコン”と言われる工場だ〔フォックスコンは台湾資本の電子部品工場で 2010 年前後に多くの労働者が工場から飛び降り自殺した：訳注〕。老朽化した工場構内にある寮の簡素な居室で、中年の労働者たちは「ここで 10 年以上働き、もうすぐ定年という時になって初めて、会社が社会保障費や住宅積立基金の会社分担当金をほんの一部しか収めていなかったことがわかったのだ」と語った。

裕元製靴工場の争議の日本語訳はこちら

<http://www.chinalaborf.org/report/report14/report140422.html>



(上) 会社（裕元）に抗議する労働者
 (中) ナイキ販売店前でスト支援のアピール
 (下) 「中山大学の教員と学生は裕元ストの徹底勝利まで支援しよう」

私は怒りとショックに襲われた！ どうして法律があるのにそんなことになってしまうのか？ どうして若い時期を、そして一生を経済発展のために捧げた労働者が年をとって何の補償も受けられない羽目になってしまうのか？

あまりにも苛酷な現実を目の当たりにして、私は法律の無力さに蒼白となった。貧しい生まれの労働者は、死ぬまで貧しさから逃れられないのだ、と。

2014年夏、広州学園都市の清掃労働者たちが自分たちの権利をまもるためにストをした。闘争現場で、労働者たちは施設管理会社がいかに不誠実で恥知らずかを私たちに語ってくれた。賃金や手当を削り、社会保障費や住宅供給基金分担金を収めず、白紙の契約書に署名するよう労働者

に強い、労働者に支払うべき法定の失職手当を払わずにすませようとした。労働者代表が要求を出すと、会社は払うべきものの代わりに、脅しを送ってよこした。会社経営者は「そうだよ、お前らをいびっているのさ」と言わんばかりの傲岸な姿勢でいた。



(左) スト清掃労働者と沈夢雨、(右) 清掃業務を所管する部門への手紙

清掃労働者たちがありとあらゆる不当な仕打ちを受けていたというのに、労働局も地区当局もこれを顧みず、まるで自分たちには何の関係もないことであるかのような態度をとっていた。義憤にかられた学生たちは労働者のために闘い、声を上げた。彼らは労働者の団結と闘争精神に学び、心を打たれた。学生と労働者が力を合わせて20日間闘った結果、ストライキは成功を収めた。



ストライキで氣勢を上げる清掃労働者たち

清掃労働者のストライキの日本語訳はこちら

<http://www.chinalaborf.org/report/report14/report140906.html>

こうした勝利は労働者に尊厳と権利をもたらし、私も、新しい可能性に目を開かされることになった。懸命に働く労働者がひどい扱いや暴力にさらされることはあってはならない。私は長期的に労働者と共に在ることを決意した。

そう、彼らが失った尊厳と権利を取り戻す方法を見つけるために。

二、自動車パーツ工場の労働者として

労働者と同じ立場に立ち続けるために「労働者になる」ことが私の一番重要な選択肢になった。

卒業後、私は広州経済開発区にやってきた。ここは職業紹介所を通してしか就職できないところだ。仕事を探すためにはまずは手数料を払わなければならない。職業紹介所は、最初にあまたの企業のいい話ばかりを吹聴して仲介手数料をかすめた後は、いまのところ人では足りているようだといった言い訳をして放置する。立て続けに二つの職業紹介所から放置された後、最終的にある日系の自動車パーツ工場——広州日弘機電有限公司の女性工員になることができた。



日弘公司是主要には東風ホンダ、广汽ホンダ、日産などの完成車工場でつかうエンジンや変速機の弁バネを生産していた。私は簡単な研修を経て、初めて現場に入った。機械の騒音が私の鼓膜を刺激し、オイルの臭いが鼻を突き、金属の粉じんが蔓延する工場では、ピカピカに磨かれたグリーンエリア【緑色区域】で労働者が忙しく動き、自分の持ち場に掲示されているベンゼンなどの化学薬品の危険表示に驚かされた。労働者たちが着けているのは、とても粉じんや毒性のあるガスを遮断することはできない使い捨てマスクだったりする。



設備の中に入ってメンテナンス後、全身粉じんだらけの労働者



汗と鉄粉の混ざったシミの痕がとれない作業着



防護措置に難ありの危険な作業

これが噂に高い「高給とり」の自動車パーツ工場なのだ。

仕事にも慣れ出したころ、多くの同僚が劣悪な環境における長期の作業によって、鼻炎、気管支炎を患い、視力が低下し、白血球の値が激減したりしていることを知った。現場の高温状態は通年で、5月などは暑くて死にそうで、酷暑のときは35度以上はあたりまえで、50度近くにもなる場所もあった。加えて労働強度は厳しく、薄いマスクをしていても苦しくなるくらいで、分厚く密閉されたマスクだったら窒息するのではないかというくらいの「災難」だ！健康と作業効率という二つの選択で、多くの同僚たちは作業効率を選ぶのだが、このような選択不可能な選択肢こそが、私や同僚たちの労働の日常となっていた。

基本給が低いこともあり、週末に休むか休まないかという選択肢において、私たちには一日も休まないという選択しかなかった！

組合に問題を提起するかわりに年末一時金をカットされるという状況があるなかで、労災に遭った労働者が当然受けられるべき補償と年末一時金の満額支給という選択肢において、わたしたちには労災を隠ぺいするという選択肢しかなかった！

管理者が年末一時金の査定という殺生与奪の権限をもつ状況で、管理者が推奨する高価な下着を買うかどうかの問題になったとき、私たちには買うという選択肢しかなかった！

管理者からの悪意ある罵倒と人格的侮辱に対して、奮起して抗議するか不当な扱いに屈してその場を収めるのかという選択肢において、私たちには黙って耐え忍ぶという選択肢しかなかった！



指がプレスでつぶされても労災申請できない



切断された指は永遠に心を痛める

さらに痛々しいのは妊婦の労働者のことだ。妊娠はさらに労働力を売って働かなければならないということの意味した。管理者はノルマ達成に達してないという理由で妊婦を敵視した。顔色をうかがい、残業が制限され、あれこれと批判や揶揄される。ノルマ達成のため妊娠や合法的な休憩をあきらめざるを得なかった。劣悪な環境と絶え間なく引き上げられるノルマによって、彼女たちは日々苦しめられている。

生産現場では、妊娠しても仕事を続けられる労働者はごく少数だ。労働強度という理由だけでなく、生産環境が胎児に与える影響がある。同僚の小梅は妊娠しても必ず仕事のさなかに流産していた。仕事を辞めてやっとこの悪夢から解放された。別の同僚は小梅の件があったので、妊娠がわかっただけで仕事を辞めたことで、流産という悪夢から逃れることができた。作業環境による影響は胎児の時から子どもの血と骨に刻みこまれる。



油と粉じんまみれの作業区域

世間知らずの20歳の青年時代から而立の年齢[30歳代]という青春時代のすべてを会社に捧げたベテラン工員らもいる。その十数年のあいだ、管理者たちはストップウォッチをもって彼らの背後にたち、一動作一秒、はやく、はやく、もっと早くとせき立てた。夜勤をはじめて3時間、材料が調達がまにあわず、号令一下、持ち場から離れなければならない。またノルマを達成するために、遅番から中番、中番から早番へとシフトが動かされ、二日間で10時間しか睡眠できないといった状況もあった。仕事と休憩の慌ただしいテンポは、睡眠不足や心身不全を招く。このような苦しみがずっと体に刻みこまれる。

同僚の王は何度も、このような人間性のかけるもない管理制度と劣悪な作業環境から逃れるために、仕事を辞めようと思ったという。しかし十数年におよんだ工場生活によって、満身創痕の自分があるほかは、なにも残っておらず、この仕事を辞めてもどこへ行けばいいのかもわからない。一家の大黒柱として、仕事を続けるしかなかった。

名称	姓名	性別	年齢	危害因素	接害工龄	描述結果
保証 1	■■■■	女	31	噪声	1.5	噪声作业：左耳听力正常；右耳语阈提高、右耳高频听阈正常；右耳平均听阈 26.7dB（请到我院复查）；
技术 1	■■■■	男	45	噪声	9.5	噪声作业：双耳语频听阈提高、双耳听阈正常；右耳语频平均听阈 30d（到我院复查）；
1 课	■■■■	男	32	噪声	10.8	噪声作业：左耳语频听阈提高、左耳听阈正常；左耳语频平均听阈 26.右耳听力正常（请到我院复查）；
1 课	■■■■	女	41	噪声	7.5	噪声作业：左耳重度传导性听力损失右耳听力正常（左中耳炎病史）（请院复查）；
2 课	■■■■	男	27	噪声	3.3	噪声作业：左耳语频、高频听阈提高左耳语频平均听阈 26.7dB；右耳听常（请到我院复查）；

部门名称	姓名	性別	年齢	危害因素	接害工龄	描述結果
制造 1 课	■■■■	男	30	高温	9.8	高温作业：血压偏高 167/78mmHg（请到我院复查）；
制造 1 课	■■■■	男	27	高温	5.6	高温作业：血压偏高 145/89mmHg（请到我院复查）；
制造 1 课	■■■■	男	31	高温	0.9	高温作业：血压偏高 133/95mmHg（请到我院复查）；
制造 2 课	■■■■	男	31	高温	7.5	高温作业：血压偏高 156/109mmHg、空腹血糖（静脉全血）偏高 6.5mmol/L（请到我院复查）；
制造 1 课	■■■■	男	35	高温	6.3	高温作业：空腹血糖（静脉全血）偏高 6.3mmol/L（请到我院复查）；
制造 1 课	■■■■	男	26	高温	0.9	高温作业：空腹血糖（静脉全血）偏高 6.3mmol/L（请到我院复查）；

健康診断の結果、多くの労働者になんらかの健康被害がみられる

さらに長い職歴をもち、多くの青春を捧げてきた労働者でさえ、会社から煙たがられる。会社にとって労働者は機械にも及ばないようだ！機械は壊れれば修理やメンテナンスに出されるが、労働者が体を壊しても、会社は雇用関係を解除して、労働者を追い出そうとするだけだ。

ここでは私たちは、
24 時間運転される機械
四六時中オンオフが繰り返されるスイッチ
ノルマ達成表のうえの数字だ

私たちは
両親の医療費のために貯金をする銀行口座
子どもたちの頬を伝う涙だ

私たちは
変形した脊髄であり、仕事痛めた腰骨であり、難聴になった耳でもある。

しかし私たちは絶対に
人間、公正と自由を享受する人間にはなることができないのだ

私たちの昼夜は逆転し、機械のかわりに24時間絶えず叫び声をあげつづけている！
私たちの不眠不休は経営者らが不労所得で富み栄える源泉になっている！
私たちが屈辱をしのんで重責を担っても、寄生虫どもは得意満面でそれに応えるだけだ！
私たちの勤勉な労働が、尊厳と権利によって応えられはしない！



穴のあいた安全靴



こんな洪水のなかでも出勤しなければならないなんて

ある友は、恨んでも仕方ない、楽しく生きることを考えよう、それが長生きの秘訣だという。しかし私はこうも思う。静寂の真夜中に「仕方ない」という言葉が口をつくのこらえきれない、これは労働者としての私の日常であり、何千何万の労働者の日常でもある。男たちの、女たちの、笑い上戸の、太っちょの、貧血の、15年も働いている、2年たっても正社員に転換できない、指を切断してしまった、流産した労働者たちの……。もし私たちが働けなくなったときには、私たちが働いた痕跡はすべてぬぐい去られ、それに代わって新鮮な血液が注入されるという単調な循環が繰り返される。

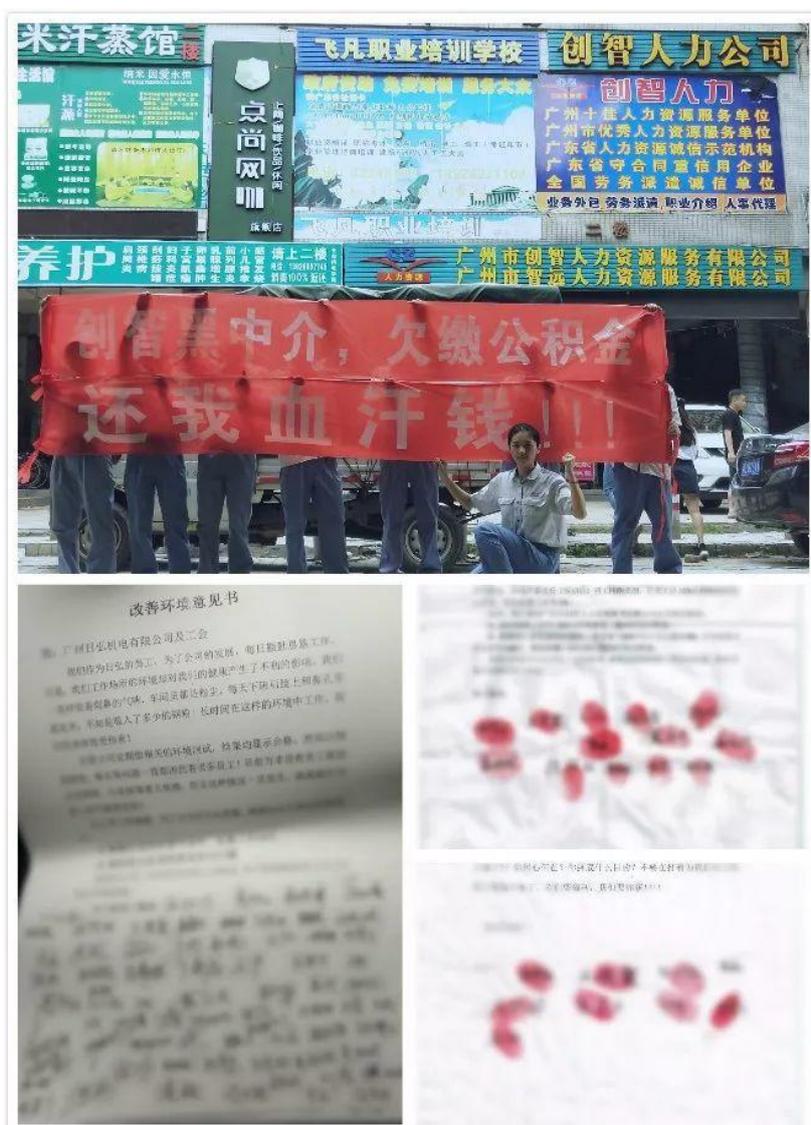
三、変革のためにたたかう

しかし、私は恨みという感情にとどまり続けることはできない！

ここには悲哀があり、怒りがあり、一人の人間としての尊厳と権利を喪失した苦痛と耐えきれなさがあがる！

ここには憧憬があり、希望があり、苦難の中に希望を求める精神があり、まじめに働くことで流した汗と努力の跡がある！

この場所を変革しなければならない！この場所は変化を渴望している！



多くの労働者が労働環境の改善や住宅積立金を求めている

2018年3月末、年に一回の賃金と年末一時金の団体協議がはじまった。例年であれば、労働側の交渉員は基本的に分会長が指名した。今年は、生産現場の工員らが自らの民主的権利を行使して、私を交渉代表の候補に推薦した。交渉代表に選ばれる過程は困難を極め、会社と組合執行部による度重なる嫌がらせがあった。かれらは言うことを聞く操り人形だけがほしかったのであり、下部から選ぶ「工員推薦」に対しては本能的な敵意を見せた！

工員らの信任と支持を受けて、困難を乗り越えて交渉代表となった私は、アンケートをつくって工員らの意見をあつめた。しかしそれは、賃上げに期待を持たせるという理由で、管理職から批判され、組合の執行部からは「自分の位置を知れ」という警告を受けた。また経営陣の利益に抵触するとも警告された。若気の至り、過激な偏向、大人げない……などと批判された。しかしこれらの批判は、私が法律にもとづいて実行した交渉員としての第一歩に対して行われたのだ！

悲哀と怒りのなか、私は、組合と会社にすれば一体何が「過激な偏向」していない方法になるのだろうかということが知りたかった。

ベテランの組合執行部の話を聞いて、アンケートをやめていたら、過激な偏向ではないのか！会社による工員への恫喝や団体協議に対する公然たる干渉も批判しないということであれば、過激な偏向ではないのか！

でっちあげによる工員への警告や処分といった違法行為に対して黙っていれば、過激な偏向ではないのか！

組合執行部が越権によって自分の代表資格を取り消す決議を認めていけば、過激な偏向ではないのか！

私が「過激な偏向」を選択したというのが、私は労働者に着せられた拘束衣からの解放を選択したのだ！

規則違反や法律違反は当たり前という管理者たちは、賄賂選挙や外部勢力や機密漏えいなどといったレッテルを幾度となくわたしに貼ってきた。わたしの残業する権利は剥奪され、現場労働者との接触を禁じられ、侮蔑と恫喝が投げかけられるといった下劣な悪だくみは枚挙にいとまがない！彼らの目的はただひとつ。私を弾圧することで現場のすべての労働者を震え上がらせることだ。



沈夢雨に対する処分通知の数々

法律に関しては、彼らにとっては無に等しく、ゴミ箱に高く積み上げられた紙切れや工場から排出される有毒ガスや汚水にすぎない。「工員のしおり」には 107 条にもわたる処罰規定こそが、彼らにとっての「法律」なのだ。

2018 年 5 月 28 日の早朝、組合執行委員会は秘密裏に会合を開き、組合員代表大会を回避して私の交渉員資格をはく奪した。午後 1 時、会社は私が上司に逆らって秩序を乱したという理由で私に対する懲戒処分を発表した。そして午後 4 時、一枚の懲戒解雇的な性格を持った通知を私に手渡し、一方的に私との雇用契約を解除することを通達した。



交渉員資格を不当に剥奪されたことに対して抗議

組合と会社の結託した悪だくみによる獰猛な笑みのような「契約解除通知に押された」真っ赤な公印は、労働者に対する彼らの絶対的な権利を宣言していた！「血汗工場」（超搾取工場）の名前はすっかりおなじみのものとなっていた。改革開放から 40 年、労働者はみずからの鮮血と生命を用いて法治中国の真実の姿を映し出す魔鏡を作り上げた。主権在民、民主的権利、身体の自由、公平公正……きれいごとをいえば言うほど、その鏡に映るのは醜い真実の姿だ！

私についていえば、日弘公司での身分の終了はけっして終わりを意味するものではない。ピタッと閉じられた工場の門をつくる鉄筋鉄骨は、不当解雇という恥知らずな行いを永遠に刻む。その門から締め出される私一人ではない。不正に対して声をあげた先達と権利のために立ち上がる後続の労働者たちもそうだろう。



一方的に労働者を解雇して締め出す会社



工場の外でも声を上げる

悪夢から目覚めた労働者は闇夜に戻ろうとはしない。立ち作業に慣れた者は跪くことをよしとしないだろう。学生から労働者へ、一般工員から交渉代表へと、労働者ととともにあり続けてきた私はますますその意志を固くするだろう。

歩いてゆこうしっかりと自分の道を踏みしめて。権利と尊厳のために奔走し、労働者のために働き、変革のためにたたかおう！

これが私の選択。そして、あと続くさらに多くの人たちの選択にもなるだろう。